

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
大野南地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月

大野南地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

1 【重点】 都市計画・都市整備	P 1
2 道路・交通	P 2
3 住環境・生活環境	P 3
4 自然・環境	P 4
5 産業・観光・商店街	P 5
6 安全・安心	P 6
7 健康・医療・福祉	P 7
8 教育・子育て	P 8
9 生涯学習・文化・スポーツ	P 9
10 【重点】地域コミュニティ	P 10
会議経過	P 11

1 【重点】都市計画・都市整備

現状と課題

大野南地区は、国道16号や町田厚木線（県道51号）、小田急線相模大野駅を有する交通の要衝として、商業施設や医療施設、行政施設などが集まっています。

今後より一層、南区の中心としての役割が期待されている中で、区の役割を明確にし、区に政策や予算の権限を移譲するなど、地域に即した行政運営が求められています。

対応方策

区の役割を明確化し、区に政策や予算の権限を移譲するなど、その現状や特性を踏まえて地域に即したまちづくりを推進する（行政）

区ごとに危機管理部門の専任組織を設置するなど、区への分権を推進し、本庁機能のコンパクト化を図る（行政）



2 道路・交通

現状と課題

大野南地区では、広域的な道路網である町田南大野線などの都市計画道路の整備が進んでおらず、地域住民や大野南地区を利用する方にとって、快適な交通網の形成が必要となっています。また、生活道路の幅員が狭い箇所や、歩道が整備されていない箇所が多く、交通渋滞や安全対策が課題となっています。

人が多く集まる相模大野駅周辺では、歩道の狭い箇所や歩きづらい歩行空間があり、歩行者の目線に立った対策が求められています。

また、徒歩や自転車の利用による移動が多い地域であることから、歩行者と自転車双方の安全対策も課題となっています。

対応方策

- ・都市計画道路町田南大野線（市道南大野）などの広域道路網の早期整備を行う（行政）
- ・交通渋滞や安全対策から狭隘な生活道路などの拡幅整備、安全対策等を進める（行政）

- ・市道淵野辺中和田（旧国道16号）
- ・中和田交差点から鶴金橋交差点の間の道路
- ・県道51号線（都市計画道路町田厚木線）の伊勢丹前の道路
- ・谷口小学校入口交差点の南側道路（ウェルパーク前）に信号機設置（関係機関と調整）

- ・人の通りが多い相模大野駅前周辺では、誰もが安心して歩くことができるような歩行空間を確保する（行政）

- ・雨天時や積雪時における相模大野駅ペDESTリアンデッキの雨水や雪解け水処理の改善
- ・コリドー街のレンガ敷きを歩きやすい舗装に改修
- ・街路灯やガードレールの配置の工夫などによる歩道の有効幅員の確保

- ・歩行者と自転車の動線を分離して、お互いの安全性の向上を図る（行政）
- ・関係機関と連携し、自転車マナー向上の取組を進める（市民・行政・その他）

3 住環境・生活環境

現状と課題

大野南地区では、市民が集まる施設や市民活動の場が少なく、家族でくつろげる場や子どもの遊び場が少ないことも課題となっており、市民がのびのびと活動し、子育てがしやすい環境づくりが求められています。

また、近年、空き家が増えてきており、これらの管理が不十分であることによる防災・防犯面の不安があります。

相模原南警察署が駅や市の施設から離れた場所にあることや、施設の老朽化による安全・安心面での不安があることから、行政機関の集約している相模大野駅周辺への早期移転が求められています。

対応方策

- ・ 市民活動が活発となるように、既存の施設を活用して、会議室の利用の仕方を工夫するなど、市民が利用しやすい仕組みをつくる（行政）
- ・ 校庭の開放やふれあい広場の利用制限の緩和など、子どもたちが遊べる環境を広げる仕組みづくりをする（行政）
- ・ 空き家対策として、行政窓口の一本化や空き家バンクなどの流通促進システムを検討する（行政）
- ・ 空き家の利活用を推進するため、関係機関と連携し、固定資産税の優遇や学生によるリノベーションの取組を推進する（市民・行政・その他）
- ・ 関係機関と連携し、相模原南警察署の相模大野駅周辺への早期移転を推進する（市民・行政・その他）

4 自然・環境

現状と課題

相模大野中央公園は、街のにぎわいづくりの核としての役割が求められている一方で、冬場に子どもが遊ぶ砂場が暗いなどの防犯面や、遊具が撤去されている箇所が見受けられるなどの管理面での課題があります。

また、大野南地区では、民間開発によって設置された小規模の公園が多く存在しており、整備年数の古い公園の中には、利用者のニーズと合っていないものもあり、柔軟な対策が求められています。

さらに、境川や深堀川を大雨時の危険箇所として捉えるだけでなく、市民が水に触れながら憩うことができる場として整備するなど、自然環境を有効に活用する方策を検討する必要があります。

対応方策

- ・ 相模大野中央公園の砂場付近の樹木を広葉樹に替えて、冬場に日陰のない砂場で子どもが快適に遊べるような工夫や、高齢者の集いの場として健康遊具を設置するなど、利用者の目線に立った環境づくりを推進する（行政）
- ・ 相模大野中央公園を大勢の人の集いの場とするため、駅から公園までの人の流れる仕組みを検討する（市民・行政）
- ・ 簡易テントや敷物などのピクニック用品の貸し出しを行うなど、相模大野中央公園をさらに活用してもらう取組を進める（行政）
- ・ 相模大野中央公園の既存ストックを生かして、期間を限定して噴水を活用するなど、人を集め、にぎわいをつくる取組を進める（行政）
- ・ 既存の小規模の公園管理について、利用者のニーズが反映できるように柔軟な対策を行う（行政）
- ・ 境川や深堀川などの自然環境を活用し、親水公園などの市民が「水に親しむ」場を整備する（行政）

5 産業・観光・商店街

現状と課題

大野南地区では、近年の相模大野駅前の再開発により大型商業施設ができ、利便性が良くなりましたが、一方で全国規模のチェーン店等が増えたことにより、地元商店街のにぎわいの低下が課題となっています。

また、コリドー街では雨天時に傘を差さずに歩けるスペースが限られていて、歩行者の目線に立った再整備が求められています。

今後は、少子高齢化などの社会情勢の変化を見据えて、時代のニーズに合った商店街へと「リニューアル」することが求められています。

対応方策

- ・商業サインを統一することで、一体感のある街並みをつくる（市民・行政）
- ・商店の連携による宅配システムを検討する（市民）
- ・コリドー街の路面を歩きやすい舗装に整備し、通路に屋根を設置することで、雨天時でも安心して誰もが歩ける空間を確保する。（市民・行政）
- ・コリドー街のベンチを使いやすいものに替える（行政）
- ・コリドー街に公衆トイレを整備する（行政）
- ・大型商業施設と地域とが意見交換できる場を設けて、連携強化を図る（市民・行政）
- ・人が多く集まる駅前に電光掲示板を設置し、地域の情報を発信する（行政）

6 安全・安心

現状と課題

近年の自然災害を踏まえると、災害時の自助共助の取組が重要となってきており、地域に根ざした小さな単位での防災対策が求められます。

そのような中で、大野南地区では、分譲マンションの増加により、近所付き合いの機会が減るなど、地域コミュニティが希薄化しているため、地域コミュニティを強化して、災害時の共助の体制を整えるなどの防災対策が求められています。

また、駅前での悪質な勧誘などによる治安の悪化や、犯罪などへの不安が高まっており、防犯対策が課題となっています。

対応方策

(防災)

- ・災害の危険がある箇所が容易に分かるように地域単位のハザードマップを作成し、広く市民に周知する（行政）
- ・災害時に自助共助が円滑にできるように、日頃から自治会での情報を共有し、商店街単位での消防訓練を行うなどのきめ細かな対策を行う（市民）
- ・関係機関と連携して、豪雨時に対応できるように境川の治水対策を実施する（行政）
- ・災害時にすぐに避難することが難しい高齢者等が、地域の中で効果的な支援を受けられるように、個人情報の取扱いを含めて体制づくりを推進する（市民・行政）
- ・災害発生時に効果的な支援が行えるよう、日頃から自治会と民生委員などが、それぞれの役割分担等について話し合い整理する機会を設ける（行政・市民）

(安全・安心)

- ・防犯パトロールなど地域の防犯活動を充実させる（市民）
- ・境川周辺に防犯灯を設置して防犯の取組を推進する（行政）

7 健康・医療・福祉

現状と課題

大野南地区では、今後、高齢化の進行が見込まれており、外出の機会が少なく地区の中で孤独感を抱える高齢者等を支援していくことが求められています。

特に、境川に隣接する上鶴間本町付近では、交通手段が限られている場所や高低差のある場所が多く、移動の困難な高齢者等の支援体制を整える必要があります。

対応方策

- ・「いきいきサロン」など高齢者等が参加できる活動の場を広げる（市民）
- ・「いきいきサロン」など高齢者等が参加できる活動の場への支援を充実させる（行政）
- ・公園などを活用して、高齢者等がスポーツをするなどの交流できる場づくりを推進する（市民・行政）
- ・福祉施策の観点から、移動の困難な高齢者等の交通手段を検討する（行政）
- ・タクシー利用助成制度を利用者の実情に合わせて他の助成に転用できるようにするなど、移動の困難な高齢者等のための制度を柔軟に運用できるようにする（行政）



8 教育・子育て

現状と課題

社会情勢等の変化により、近年、共働き世帯の増加や、家族構成が変化している状況を踏まえ、子育てと仕事が両立できる環境づくりが求められています。

今後も年少人口が増える見込みである大野南地区では、特に駅周辺でマンションの建設が増え、現時点でも小中学校の教室が不足しており、子育てや教育環境の悪化が課題となっており、子どもの遊び場や勉強の場などの居場所づくりが求められています。

また、子ども間の体力や知力の格差が広がってきている中で、生まれ育った環境に左右されることなく、子どもたちが等しく学習の機会を得て、自主性を高めていく取組が必要となっています。

さらに、子どもを預ける保育園などでは保育士の数も不足している状況にあり、人材確保に向けた取組が求められています。

対応方策

- ・子ども一人ひとりの自主性を高めるために、家庭や地域の教育力を向上する取組を推進する（行政・市民）
- ・子どもの遊び場や勉強の場などの居場所を確保するため、管理体制も踏まえて、学校における平日の放課後の校庭開放や空き教室の有効活用を検討する（行政・市民）
- ・放課後の空き教室などを活用した無料塾開催などの学習支援を実施する（行政）
- ・地域のコミュニティと繋がる「子ども食堂」の取組を支援する（行政・市民）
- ・子ども向けサロンの取組の頻度や場所を拡充する（市民・行政）
- ・夏休みの学校プールの開放日数を増やすとともに、水泳指導を充実させる。（行政）
- ・他都市の制度も参考にしながら、保育士への支援制度を充実させる（行政）

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

大野南地区では、相模大野図書館やユニコムプラザさがみはらなどの市の施設がありますが、民間による委託管理になっており、地域の声や利用者の声が十分に反映される施設運営が求められています。

また、本地区では、多くの地域のイベントがありますが、地域の隅々まで情報が伝わっていないことが課題となっています。

さらに、子どものみならず大人の体力格差も広がってきている中で、生涯を通じてスポーツを楽しむ環境の整備が必要となっています。

対応方策

- ・民間による委託管理となっている市の施設の運営に対して、市民が管理者に意見をする機会を設けて、よりよい施設運営が実現できるようにする仕組みをつくるなど、委託管理のあり方を工夫する（市民・行政）
- ・イベント情報が地域の隅々まで伝わるように情報発信の仕方を工夫する（市民・行政）
- ・生涯スポーツを推進するため、公民館等に体育施設を併設する（行政）

【重点】10 地域コミュニティ

現状と課題

大野南地区では、価値観の多様化などの市民の考え方の変化や、分譲マンションの増加による自治会加入率の低下などにより、近所付き合いの機会が減少し、地域コミュニティの希薄化が問題となっています。

また、地域の身近な相談相手である民生委員のなり手が少ないなどの課題があります。

さらに、近年では、外国人市民が増えてきていますが、地域との交流が少なく、生活習慣の違いなどを相互に理解した上で、地域の中で共存していくことが必要となっています。

対応方策

集合住宅における集会所等の固定資産税の減免措置を、自治会の集会所に限定するなど、集合住宅への自治会設立または加入を促進する（行政）

国籍を問わず子どもから高齢者まで3世代が交流できる場づくりを推進するとともに、中高年の引きこもり者対策の検討や、高齢者等の閉じこもりの対策としてデイサービスの送迎の隙間時間を活用するなど民間事業者との連携による交通手段の検討を行う（市民・行政・その他）

- ・自治会費の支払い費用を確定申告時に所得から控除するなど、税制上の優遇措置を関係機関へ要望するなど、自治会加入によるメリットを充実する（行政）
- ・転入者や同世代などの同じような環境におかれた方々が、小さな単位で繋がるような新たなコミュニティづくりを推進する（市民）
- ・自治会への加入促進や民生委員のなり手不足解消について、行政サイドからも積極的に支援する（行政）

会議経過

日 程	会 議 内 容	委員出席数
平成30年 6月19日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	21名
7月10日	第2回 ・課題と対応方策検討	22名
8月 7日	第3回 ・課題と対応方策検討	20名
8月28日	第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	16名
9月21日	第5回 ・報告書のとりまとめ	21名

